

理解ある「イクボス」へ

●丸亀でワークショップ●

管理職ら60人 意見交換



「元祖イクボス」の川島さん(中央)に促され、職場の課題を話し合う参加者—丸亀市金倉町

男性も女性も生き生きと働ける社会の実現を目指したワークショップ「イクボス式『チーム戦略』が組織を救つ！」がこのほど、丸亀市金倉町のPikaraスタジオ会議室で開かれた。「元祖イクボス」と言われるNPO法人ファザーリング・ジャパン(東京)の川島高之理事が講師とな

り、「私生活が充実すれば、仕事の能力や成果は高まる」として、育児をはじめ部下の私生活に理解のあるイクボスの重要性を力説した。

女性の社会進出を後押しするため、県の男女共同参画事業として開催。自治体や企業の管理職、人事担当者ら約60人が参加した。

川島さんは自らの経験を踏まえ、育児などに配慮することで部下の家庭が安定したり、部下が職場以外でさまざまな経験ができたことにより、個人の能力だけでなく、組織としてチーム力が向上することを解説。部下が時間を取りやすいよう業務の無駄をいかに減らすかなど、生産性を高めるための上司の心構えや手法を説いた。

介護離職や熟年離婚などの問題にも触れ、従来の働き方を大きく変える必要性を強調し、「ワークライフバランス(仕事と生活の両立)は与えられるものではなく、自ら取りにいくもの」と主体的な行動を求めた。

参加者は「部下が急に一人抜けても対応方法を用意している」など、8項目の「イクボス度」をチェックしたほか、職場の課題などを話し合った。